

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価		達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である																																																																																																		
学校名		佐賀県立唐津東中学校																																																																																																		
1 前年度 評価結果の概要	・学力向上については、学力推移調査の結果と11の方策の数値設定に差があり、どの学年も苦戦している。その中では1年生が底上げに成功し、成果を上げている。次年度以降は現状を分析し、計画の段階から効果的方策を模索し、結果に結びつけたい。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を目指し取り組んできた結果を残せた。いじめの早期発見、早期対応を概ね実行できた。特に人間関係の複雑さや生徒自身の特性の問題などから対応が難しい面があった。 ・グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組み、各種行事等を計画通りに実行することができた。また、海外研修にも積極的に参加する生徒等、多くの生徒が校外活動においてもチャレンジした。次年度もさらに発展させたい。 ・健康・体づくりについては、「ほけんだより」を中心に定期・不定期にタイムリーな呼びかけ、注意喚起を行えた。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進や部活動の休養日については、その意義を周知し、実践に結びつけることができた。行事の精選、業務量の削減や校務の平準化を実行し、時間外在校時間の縮減と労働環境の改善に取り組む。																																																																																																			
2 学校教育目標 SAGAスクール・ ミッション	○北部地区の県立中高一貫教育校として、これからの時代を見据えた6年間のカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。 ○120年以上の歴史を持つ唐津市の伝統校として、地域の行政機関や各学校、地域の方々と連携した活動の中で、高い志と主体的に生きる力を身に付け、地域や国際社会の発展に貢献できる逞しい人材を育成する。																																																																																																			
3 本年度の重点目標	①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成																																																																																																			
4 重点取組内容・成果指標		5 最終評価																																																																																																		
(1)共通評価項目																																																																																																				
<table><tr><th colspan="3">重点取組</th><th colspan="2">最終評価</th><th colspan="2">学校関係者評価</th></tr><tr><th>評価項目</th><th>取組内容</th><th>成果指標 (数値目標)</th><th>具体的取組</th><th>達成度 (評価)</th><th>実施結果</th><th>評価</th><th>意見や提言</th></tr><tr><td rowspan="2">●学力の向上</td><td>○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践</td><td>○学力向上対策評価シートにおいて、共通実践を共有しマイプランの成果指標を適切に設定し、達成できるように努めた教師を80%以上にする。</td><td>・生徒一人ひとりの進路希望実現を目指した成果指標となるマイプランを作成する。 ・学習状況調査の結果を検討し、生徒の到達度を中学職員間で共有する。</td><td>A</td><td>・中学生の学習状況を全職員に周知することで、6年間を見通した学習計画を考えるきっかけになった。 ・今後、中高6年間の学習指導について教科部会や中高進路部会で具体的な目標を立てていきたい。</td><td>A</td><td>・このように計画的に進路指導されていることを知ると、先生方には頭が下がります。子供達の成績に神経質な保護者もいれば、その一方で全然無関心な方も多く、先生方も大変だなと思っています。これからも根気強く“進路指導”していただければと思います。</td></tr><tr><td>○学力の向上</td><td>○全国模試の学力推移調査において、benesseの指標A1以上の生徒を中1は20名以上、中2は30名以上、中3は20名以上にする。 ○「家庭学習は十分にできている」について肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。</td><td>・各学年、教科でわかる授業の実践に取り組む、効果的な授業改善を行う。 ・中高6年間を見通した指導計画を立て、計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・学力推移調査や学習状況調査の結果を集約し、学力分析会を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。</td><td>A</td><td>・学力推移調査を元に学力分析会を行い、各学年や各教科の課題を全職員で確認することができた。今後は、学年や教科を超えた取り組みにつなげていきたい。 ・家庭学習は十分にできている生徒の割合が1学期と比べると微増(51%→55%)であり、家庭学習の確保が今後の課題である。</td><td>A</td><td>・年初の目標の数字(Berneseの指標、家庭学習)がクリアされていないようですが、学校としては高い目標を掲げ、良い“数字”が出ているといったところなのではないでしょうか。 ・大学入試では、英検等のスコアを得点化してくれるところも多くなってきていると聞きます。以前取り組まれていた「中学校で英検2級」というのは良い取り組みだったと思うので、来年度は数値目標の一つにされたらどうでしょうか。</td></tr><tr><td rowspan="4">●心の教育</td><td>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</td><td>◎道徳アンケートを1月に実施し、「人との関わりに関すること」と「生命や自然、崇高なものの関わりに関すること」の項目で肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。</td><td>・「生命を大切にすること」「自他を認め合う」ことを重点目標とし、人権教育と連携する。 ・職員室の道徳コーナーを活用し、各学年で教材の共有を行い、学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。</td><td>A</td><td>・2月に実施したアンケートでは、人との関わりに関する項目で96%、生命に関する項目で100%の生徒が肯定的な回答をした。また、印象に残った教材や自分の成長についての記述回答では、命の重さやコミュニケーションの難しさを学んだことを自分の成長も感じながら書いていた。</td><td>A</td><td>・心の教育に関しては学校の中だけでなく、地域の様々な仕事、経験を持っておられる方々に、各々の教えに沿ってお話いただけたらと思います。</td></tr><tr><td>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</td><td>○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上にする。</td><td>・いじめに関する教職員研修を実施する。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を共有し、「いじめの未然防止の取組」「いじめの早期発見の取組」に努める。 ・いじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。</td><td>A</td><td>・いじめに関しては、アンケートの実施など早期発見に取り組み、大きな問題に発展することにはなかった。 ・生徒理解協議会で不登校生徒などの情報を教育相談・保健室とも共有し、その対策を話し合うことができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができている回答した教職員が94.1%であった。</td><td>A</td><td>・「いじめ・体罰等対策委員会」での学校からのお話を聞いている限り大きな問題もなく、楽しく学校生活を送れているのだなと感じています。</td></tr><tr><td>●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。</td><td>●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上</td><td>・生徒の思いや状況を的確に把握し、くみ取りながら適切な声かけや支援・指導をとおして自発的な成長を促すことで生徒との信頼関係を築く ・キャリアに関する講演会や体験的活動をとおして、自分自身をみつめ、将来のあり方自ら探る探究的活動の機会を設ける。 ・外部講師や先輩の話を聞く機会を設けたり、地域や外部との連携を深めながら将来の夢や目標を実現するための手立てを考える機会を設ける。 ・校外での体験活動を奨励し、ボランティア活動や地域での活動に積極的に参加できるようにする。</td><td>A</td><td>・進路について必要な情報が提供されていると回答した生徒は82%となり、将来のビジョンを持ちつつ学校生活を送る様子がうかがえる。 ・2月に実施したアンケートでは、「将来の夢や目標をもっている」の項目で、67.5%の生徒が肯定的な回答をした。将来の夢は決まっていない生徒でも、自分の目標を記述することはできおり、目標達成のために何をすべきか考えていた。</td><td>A</td><td>・自分の将来について全く考えたことも、またそんな機会もなかった親の世代に比べて、将来について学校でこんなに考える機会があるのかと思うと、今の中学生が実に羨ましいです。</td></tr><tr><td>◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成</td><td>◎「グローバルに活躍したいか、物事に積極的に挑戦したいか」について、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。</td><td>・2年生で、英会話体験プログラムを企画・運営する。 ・1年生の校外学習や3年生の修学旅行を通して、課題に気付き、視野を広げる取り組みを行う。 ・海外研修体験発表を中学生向けに実施する。</td><td>A</td><td>・2年生の英会話体験プログラムに向けて、生徒同士の教え合い学習とALTとの英会話レッスンを2年生全員に対して行ったところ、言葉が通じた達成感を感じていた。 ・3月のオーストラリア研修に中学3年生が12名参加する予定である。</td><td>A</td><td>・何事も経験、チャレンジする行動力を身につけることは素晴らしいことです。</td></tr><tr><td rowspan="2">●健康・体づくり</td><td>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</td><td>○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上</td><td>・「ほけんだより」等をとおして、食育に関する情報を提供する。 ・学級や部活動等において様々な機会を見つけ、食に関する話を行うことで、生徒の食に関する意識を高める。 ・家庭科や保健体育科で食に関連する学習を行い、そこで学習したことを他教科や行事などで喚起できるようにする。 ・生徒の委員会活動で、食育に関する活動を入れる。</td><td>A</td><td>・「ほけんだより」等を通して、食育の情報の提供・働きかけを行ったり、学級活動や各教科での取り扱いをしりすることで、生徒の食に関する意識を高めるようにした。また、部活動等でも食に関する話をしたり、生徒会活動にも食に関する取り組みを行ったりすることで生徒自身が自分の健康を管理していく意識を喚起した。その結果、昨年に引き続き、健康に良い食事をしている生徒の割合が90%を越え、朝食を食べて登校する生徒が8割以上と定着した。次年度も引き続き、様々な働きかけを行い、食を通して健康を管理する力をつけたい。</td><td>A</td><td>・食はこれからの人生を楽しむためには大きなウェイトを占めると思います。食べ物の好き嫌いがもとで「偏食はダメだな…」と思い知らされる場面を多く経験してきました。偏食することなく、健康な体を作って欲しいと思います。</td></tr><tr><td>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</td><td>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</td><td>・時間外在校時間の上限を周知する。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。</td><td>A</td><td>・年休の消化13日以上を目標にしているが、半数の職員が達成し、10日以上では7割の職員が達成した。 ・2－6月平均の在校等時間が80時間を超えた職員はのべ1名である。個別に必要な助言を与え状況を見守っていく。 ・部活動休養日の順守もほぼできており、過度に時間を増やした指導をしている部活動はない。</td><td>A</td><td>・先生方の業務時間の調整は大変だとは思いますが、本校においては概ね管理が行き届いているようですので、引き続き業務の効率化を継続していかれることを望みます。先生方がお元気でなければ、良い学校運営はできないと思います。</td></tr><tr><td rowspan="2">●業務改善・教職員の働き方改革の推進</td><td>○労働環境の改善</td><td>○「作業管理や作業環境等労働環境が改善された」と回答した教職員を80%以上にする。</td><td>・データの共有を促進してペーパーレス化に努めることによって効率化を図る。 ・ICT活用を促進する。特に調査やアンケートをネットや支援ソフトを使って行う回数を増やす。</td><td>A</td><td>・服務管理システムの導入により、勤怠管理のペーパーレス化が進んだ。職員が慣れれば効率化は進むと思われる。 ・校内外のアンケートのICT化が進み回答、集計の効率は格段に向上した。</td><td>A</td><td>・便利なものは積極的に取り入れて、先生方の業務が軽減されるのは良いことだと思います。</td></tr><tr><td>○（学校独自重点取組・任意） 特別支援教育の理解を促進し、教育相談との融合を図る</td><td>○（学校独自成果指標・任意） 発達障害や学習障害等の領域を含めて生徒理解が深まったとする職員80%以上</td><td>・学期に一回以上、特別支援教育校内委員会を持つ。 ・学期に1回以上、生徒理解協議会を開催する。その際、発達障害や学習障害についての情報共有や対応について協議する。 ・職員研修を学期に1回は実施する。 ・先進的で合理的な取り組みの情報を共有する。</td><td>A</td><td>・生徒理解協議会が定期的に行われており、生徒情報の共有化は推進できている。 ・教育相談、別室登校の取り組みを進めるべくその準備の一年となった。来年度から別室登校支援員の配置が決まり、一層充実を図っていきたい。</td><td>A</td><td>・生徒理解協議会を通し、十分な理解を持って指導に当たって頂きたいと思います ・子供達との良い関係性、距離感を持つことを大事にして接していただきたく思います。</td></tr><tr><td colspan="4">●…県共通 ○…学校独自 ○…意を高める教育</td></tr><tr><td>5 総合評価・ 次年度への展望</td><td colspan="3">・学力向上については、11の方策の数値設定を修正し、実態に即した目標になった。全体としてはどの学年も大きく落ち込んでいるわけではないが、教科の数値バランスが悪い時期もあったようである。目先の数値よりも3年間、あるいは6年間の指導ビジョンをその都度確認、検証して効果ある指導につなげていかなければならない。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を学校行事を通して、あるいは道徳教育等を通して取り組み、ある程度の結果を残せた。いじめの早期発見早期対応に努め、教師間での情報共有や保護者への迅速な連絡、相談に努めてきた。別室登校支援員の配置も決まり、教育相談、特別支援教育的側面からの生徒支援の充実を今後も図っていきたい。 ・グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組み、各種行事等を計画通りに実行することができた。また、海外研修にも積極的に参加する生徒等、多くの生徒が校外活動においてもチャレンジした。次年度もさらに発展させたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進や部活動の休養日については、その意義を周知してきたが、時間外勤務の時間数は昨年度と比較して改善されたとは言えない。一人ひとりの意識改革も必要であるが、学校全体で取り組む業務改善の目標を設定し、あわせて用務の平準化を今後も進めていく。</td></tr></table>				重点取組			最終評価		学校関係者評価		評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートにおいて、共通実践を共有しマイプランの成果指標を適切に設定し、達成できるように努めた教師を80%以上にする。	・生徒一人ひとりの進路希望実現を目指した成果指標となるマイプランを作成する。 ・学習状況調査の結果を検討し、生徒の到達度を中学職員間で共有する。	A	・中学生の学習状況を全職員に周知することで、6年間を見通した学習計画を考えるきっかけになった。 ・今後、中高6年間の学習指導について教科部会や中高進路部会で具体的な目標を立てていきたい。	A	・このように計画的に進路指導されていることを知ると、先生方には頭が下がります。子供達の成績に神経質な保護者もいれば、その一方で全然無関心な方も多く、先生方も大変だなと思っています。これからも根気強く“進路指導”していただければと思います。	○学力の向上	○全国模試の学力推移調査において、benesseの指標A1以上の生徒を中1は20名以上、中2は30名以上、中3は20名以上にする。 ○「家庭学習は十分にできている」について肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・各学年、教科でわかる授業の実践に取り組む、効果的な授業改善を行う。 ・中高6年間を見通した指導計画を立て、計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・学力推移調査や学習状況調査の結果を集約し、学力分析会を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。	A	・学力推移調査を元に学力分析会を行い、各学年や各教科の課題を全職員で確認することができた。今後は、学年や教科を超えた取り組みにつなげていきたい。 ・家庭学習は十分にできている生徒の割合が1学期と比べると微増(51%→55%)であり、家庭学習の確保が今後の課題である。	A	・年初の目標の数字(Berneseの指標、家庭学習)がクリアされていないようですが、学校としては高い目標を掲げ、良い“数字”が出ているといったところなのではないでしょうか。 ・大学入試では、英検等のスコアを得点化してくれるところも多くなってきていると聞きます。以前取り組まれていた「中学校で英検2級」というのは良い取り組みだったと思うので、来年度は数値目標の一つにされたらどうでしょうか。	●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎道徳アンケートを1月に実施し、「人との関わりに関すること」と「生命や自然、崇高なものの関わりに関すること」の項目で肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・「生命を大切にすること」「自他を認め合う」ことを重点目標とし、人権教育と連携する。 ・職員室の道徳コーナーを活用し、各学年で教材の共有を行い、学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。	A	・2月に実施したアンケートでは、人との関わりに関する項目で96%、生命に関する項目で100%の生徒が肯定的な回答をした。また、印象に残った教材や自分の成長についての記述回答では、命の重さやコミュニケーションの難しさを学んだことを自分の成長も感じながら書いていた。	A	・心の教育に関しては学校の中だけでなく、地域の様々な仕事、経験を持っておられる方々に、各々の教えに沿ってお話いただけたらと思います。	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上にする。	・いじめに関する教職員研修を実施する。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を共有し、「いじめの未然防止の取組」「いじめの早期発見の取組」に努める。 ・いじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。	A	・いじめに関しては、アンケートの実施など早期発見に取り組み、大きな問題に発展することにはなかった。 ・生徒理解協議会で不登校生徒などの情報を教育相談・保健室とも共有し、その対策を話し合うことができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができている回答した教職員が94.1%であった。	A	・「いじめ・体罰等対策委員会」での学校からのお話を聞いている限り大きな問題もなく、楽しく学校生活を送れているのだなと感じています。	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒の思いや状況を的確に把握し、くみ取りながら適切な声かけや支援・指導をとおして自発的な成長を促すことで生徒との信頼関係を築く ・キャリアに関する講演会や体験的活動をとおして、自分自身をみつめ、将来のあり方自ら探る探究的活動の機会を設ける。 ・外部講師や先輩の話を聞く機会を設けたり、地域や外部との連携を深めながら将来の夢や目標を実現するための手立てを考える機会を設ける。 ・校外での体験活動を奨励し、ボランティア活動や地域での活動に積極的に参加できるようにする。	A	・進路について必要な情報が提供されていると回答した生徒は82%となり、将来のビジョンを持ちつつ学校生活を送る様子がうかがえる。 ・2月に実施したアンケートでは、「将来の夢や目標をもっている」の項目で、67.5%の生徒が肯定的な回答をした。将来の夢は決まっていない生徒でも、自分の目標を記述することはできおり、目標達成のために何をすべきか考えていた。	A	・自分の将来について全く考えたことも、またそんな機会もなかった親の世代に比べて、将来について学校でこんなに考える機会があるのかと思うと、今の中学生が実に羨ましいです。	◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成	◎「グローバルに活躍したいか、物事に積極的に挑戦したいか」について、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・2年生で、英会話体験プログラムを企画・運営する。 ・1年生の校外学習や3年生の修学旅行を通して、課題に気付き、視野を広げる取り組みを行う。 ・海外研修体験発表を中学生向けに実施する。	A	・2年生の英会話体験プログラムに向けて、生徒同士の教え合い学習とALTとの英会話レッスンを2年生全員に対して行ったところ、言葉が通じた達成感を感じていた。 ・3月のオーストラリア研修に中学3年生が12名参加する予定である。	A	・何事も経験、チャレンジする行動力を身につけることは素晴らしいことです。	●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・「ほけんだより」等をとおして、食育に関する情報を提供する。 ・学級や部活動等において様々な機会を見つけ、食に関する話を行うことで、生徒の食に関する意識を高める。 ・家庭科や保健体育科で食に関連する学習を行い、そこで学習したことを他教科や行事などで喚起できるようにする。 ・生徒の委員会活動で、食育に関する活動を入れる。	A	・「ほけんだより」等を通して、食育の情報の提供・働きかけを行ったり、学級活動や各教科での取り扱いをしりすることで、生徒の食に関する意識を高めるようにした。また、部活動等でも食に関する話をしたり、生徒会活動にも食に関する取り組みを行ったりすることで生徒自身が自分の健康を管理していく意識を喚起した。その結果、昨年に引き続き、健康に良い食事をしている生徒の割合が90%を越え、朝食を食べて登校する生徒が8割以上と定着した。次年度も引き続き、様々な働きかけを行い、食を通して健康を管理する力をつけたい。	A	・食はこれからの人生を楽しむためには大きなウェイトを占めると思います。食べ物の好き嫌いがもとで「偏食はダメだな…」と思い知らされる場面を多く経験してきました。偏食することなく、健康な体を作って欲しいと思います。	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外在校時間の上限を周知する。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。	A	・年休の消化13日以上を目標にしているが、半数の職員が達成し、10日以上では7割の職員が達成した。 ・2－6月平均の在校等時間が80時間を超えた職員はのべ1名である。個別に必要な助言を与え状況を見守っていく。 ・部活動休養日の順守もほぼできており、過度に時間を増やした指導をしている部活動はない。	A	・先生方の業務時間の調整は大変だとは思いますが、本校においては概ね管理が行き届いているようですので、引き続き業務の効率化を継続していかれることを望みます。先生方がお元気でなければ、良い学校運営はできないと思います。	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○労働環境の改善	○「作業管理や作業環境等労働環境が改善された」と回答した教職員を80%以上にする。	・データの共有を促進してペーパーレス化に努めることによって効率化を図る。 ・ICT活用を促進する。特に調査やアンケートをネットや支援ソフトを使って行う回数を増やす。	A	・服務管理システムの導入により、勤怠管理のペーパーレス化が進んだ。職員が慣れれば効率化は進むと思われる。 ・校内外のアンケートのICT化が進み回答、集計の効率は格段に向上した。	A	・便利なものは積極的に取り入れて、先生方の業務が軽減されるのは良いことだと思います。	○（学校独自重点取組・任意） 特別支援教育の理解を促進し、教育相談との融合を図る	○（学校独自成果指標・任意） 発達障害や学習障害等の領域を含めて生徒理解が深まったとする職員80%以上	・学期に一回以上、特別支援教育校内委員会を持つ。 ・学期に1回以上、生徒理解協議会を開催する。その際、発達障害や学習障害についての情報共有や対応について協議する。 ・職員研修を学期に1回は実施する。 ・先進的で合理的な取り組みの情報を共有する。	A	・生徒理解協議会が定期的に行われており、生徒情報の共有化は推進できている。 ・教育相談、別室登校の取り組みを進めるべくその準備の一年となった。来年度から別室登校支援員の配置が決まり、一層充実を図っていきたい。	A	・生徒理解協議会を通し、十分な理解を持って指導に当たって頂きたいと思います ・子供達との良い関係性、距離感を持つことを大事にして接していただきたく思います。	●…県共通 ○…学校独自 ○…意を高める教育				5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上については、11の方策の数値設定を修正し、実態に即した目標になった。全体としてはどの学年も大きく落ち込んでいるわけではないが、教科の数値バランスが悪い時期もあったようである。目先の数値よりも3年間、あるいは6年間の指導ビジョンをその都度確認、検証して効果ある指導につなげていかなければならない。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を学校行事を通して、あるいは道徳教育等を通して取り組み、ある程度の結果を残せた。いじめの早期発見早期対応に努め、教師間での情報共有や保護者への迅速な連絡、相談に努めてきた。別室登校支援員の配置も決まり、教育相談、特別支援教育的側面からの生徒支援の充実を今後も図っていきたい。 ・グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組み、各種行事等を計画通りに実行することができた。また、海外研修にも積極的に参加する生徒等、多くの生徒が校外活動においてもチャレンジした。次年度もさらに発展させたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進や部活動の休養日については、その意義を周知してきたが、時間外勤務の時間数は昨年度と比較して改善されたとは言えない。一人ひとりの意識改革も必要であるが、学校全体で取り組む業務改善の目標を設定し、あわせて用務の平準化を今後も進めていく。		
重点取組			最終評価		学校関係者評価																																																																																															
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言																																																																																													
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートにおいて、共通実践を共有しマイプランの成果指標を適切に設定し、達成できるように努めた教師を80%以上にする。	・生徒一人ひとりの進路希望実現を目指した成果指標となるマイプランを作成する。 ・学習状況調査の結果を検討し、生徒の到達度を中学職員間で共有する。	A	・中学生の学習状況を全職員に周知することで、6年間を見通した学習計画を考えるきっかけになった。 ・今後、中高6年間の学習指導について教科部会や中高進路部会で具体的な目標を立てていきたい。	A	・このように計画的に進路指導されていることを知ると、先生方には頭が下がります。子供達の成績に神経質な保護者もいれば、その一方で全然無関心な方も多く、先生方も大変だなと思っています。これからも根気強く“進路指導”していただければと思います。																																																																																													
	○学力の向上	○全国模試の学力推移調査において、benesseの指標A1以上の生徒を中1は20名以上、中2は30名以上、中3は20名以上にする。 ○「家庭学習は十分にできている」について肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・各学年、教科でわかる授業の実践に取り組む、効果的な授業改善を行う。 ・中高6年間を見通した指導計画を立て、計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・学力推移調査や学習状況調査の結果を集約し、学力分析会を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。	A	・学力推移調査を元に学力分析会を行い、各学年や各教科の課題を全職員で確認することができた。今後は、学年や教科を超えた取り組みにつなげていきたい。 ・家庭学習は十分にできている生徒の割合が1学期と比べると微増(51%→55%)であり、家庭学習の確保が今後の課題である。	A	・年初の目標の数字(Berneseの指標、家庭学習)がクリアされていないようですが、学校としては高い目標を掲げ、良い“数字”が出ているといったところなのではないでしょうか。 ・大学入試では、英検等のスコアを得点化してくれるところも多くなってきていると聞きます。以前取り組まれていた「中学校で英検2級」というのは良い取り組みだったと思うので、来年度は数値目標の一つにされたらどうでしょうか。																																																																																													
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	◎道徳アンケートを1月に実施し、「人との関わりに関すること」と「生命や自然、崇高なものの関わりに関すること」の項目で肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・「生命を大切にすること」「自他を認め合う」ことを重点目標とし、人権教育と連携する。 ・職員室の道徳コーナーを活用し、各学年で教材の共有を行い、学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。	A	・2月に実施したアンケートでは、人との関わりに関する項目で96%、生命に関する項目で100%の生徒が肯定的な回答をした。また、印象に残った教材や自分の成長についての記述回答では、命の重さやコミュニケーションの難しさを学んだことを自分の成長も感じながら書いていた。	A	・心の教育に関しては学校の中だけでなく、地域の様々な仕事、経験を持っておられる方々に、各々の教えに沿ってお話いただけたらと思います。																																																																																													
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上にする。	・いじめに関する教職員研修を実施する。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を共有し、「いじめの未然防止の取組」「いじめの早期発見の取組」に努める。 ・いじめに関するアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげる。	A	・いじめに関しては、アンケートの実施など早期発見に取り組み、大きな問題に発展することにはなかった。 ・生徒理解協議会で不登校生徒などの情報を教育相談・保健室とも共有し、その対策を話し合うことができた。 ・いじめ防止等について組織的対応ができている回答した教職員が94.1%であった。	A	・「いじめ・体罰等対策委員会」での学校からのお話を聞いている限り大きな問題もなく、楽しく学校生活を送れているのだなと感じています。																																																																																													
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・生徒の思いや状況を的確に把握し、くみ取りながら適切な声かけや支援・指導をとおして自発的な成長を促すことで生徒との信頼関係を築く ・キャリアに関する講演会や体験的活動をとおして、自分自身をみつめ、将来のあり方自ら探る探究的活動の機会を設ける。 ・外部講師や先輩の話を聞く機会を設けたり、地域や外部との連携を深めながら将来の夢や目標を実現するための手立てを考える機会を設ける。 ・校外での体験活動を奨励し、ボランティア活動や地域での活動に積極的に参加できるようにする。	A	・進路について必要な情報が提供されていると回答した生徒は82%となり、将来のビジョンを持ちつつ学校生活を送る様子がうかがえる。 ・2月に実施したアンケートでは、「将来の夢や目標をもっている」の項目で、67.5%の生徒が肯定的な回答をした。将来の夢は決まっていない生徒でも、自分の目標を記述することはできおり、目標達成のために何をすべきか考えていた。	A	・自分の将来について全く考えたことも、またそんな機会もなかった親の世代に比べて、将来について学校でこんなに考える機会があるのかと思うと、今の中学生が実に羨ましいです。																																																																																													
	◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成	◎「グローバルに活躍したいか、物事に積極的に挑戦したいか」について、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。	・2年生で、英会話体験プログラムを企画・運営する。 ・1年生の校外学習や3年生の修学旅行を通して、課題に気付き、視野を広げる取り組みを行う。 ・海外研修体験発表を中学生向けに実施する。	A	・2年生の英会話体験プログラムに向けて、生徒同士の教え合い学習とALTとの英会話レッスンを2年生全員に対して行ったところ、言葉が通じた達成感を感じていた。 ・3月のオーストラリア研修に中学3年生が12名参加する予定である。	A	・何事も経験、チャレンジする行動力を身につけることは素晴らしいことです。																																																																																													
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上	・「ほけんだより」等をとおして、食育に関する情報を提供する。 ・学級や部活動等において様々な機会を見つけ、食に関する話を行うことで、生徒の食に関する意識を高める。 ・家庭科や保健体育科で食に関連する学習を行い、そこで学習したことを他教科や行事などで喚起できるようにする。 ・生徒の委員会活動で、食育に関する活動を入れる。	A	・「ほけんだより」等を通して、食育の情報の提供・働きかけを行ったり、学級活動や各教科での取り扱いをしりすることで、生徒の食に関する意識を高めるようにした。また、部活動等でも食に関する話をしたり、生徒会活動にも食に関する取り組みを行ったりすることで生徒自身が自分の健康を管理していく意識を喚起した。その結果、昨年に引き続き、健康に良い食事をしている生徒の割合が90%を越え、朝食を食べて登校する生徒が8割以上と定着した。次年度も引き続き、様々な働きかけを行い、食を通して健康を管理する力をつけたい。	A	・食はこれからの人生を楽しむためには大きなウェイトを占めると思います。食べ物の好き嫌いがもとで「偏食はダメだな…」と思い知らされる場面を多く経験してきました。偏食することなく、健康な体を作って欲しいと思います。																																																																																													
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・時間外在校時間の上限を周知する。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定する。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。	A	・年休の消化13日以上を目標にしているが、半数の職員が達成し、10日以上では7割の職員が達成した。 ・2－6月平均の在校等時間が80時間を超えた職員はのべ1名である。個別に必要な助言を与え状況を見守っていく。 ・部活動休養日の順守もほぼできており、過度に時間を増やした指導をしている部活動はない。	A	・先生方の業務時間の調整は大変だとは思いますが、本校においては概ね管理が行き届いているようですので、引き続き業務の効率化を継続していかれることを望みます。先生方がお元気でなければ、良い学校運営はできないと思います。																																																																																													
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○労働環境の改善	○「作業管理や作業環境等労働環境が改善された」と回答した教職員を80%以上にする。	・データの共有を促進してペーパーレス化に努めることによって効率化を図る。 ・ICT活用を促進する。特に調査やアンケートをネットや支援ソフトを使って行う回数を増やす。	A	・服務管理システムの導入により、勤怠管理のペーパーレス化が進んだ。職員が慣れれば効率化は進むと思われる。 ・校内外のアンケートのICT化が進み回答、集計の効率は格段に向上した。	A	・便利なものは積極的に取り入れて、先生方の業務が軽減されるのは良いことだと思います。																																																																																													
	○（学校独自重点取組・任意） 特別支援教育の理解を促進し、教育相談との融合を図る	○（学校独自成果指標・任意） 発達障害や学習障害等の領域を含めて生徒理解が深まったとする職員80%以上	・学期に一回以上、特別支援教育校内委員会を持つ。 ・学期に1回以上、生徒理解協議会を開催する。その際、発達障害や学習障害についての情報共有や対応について協議する。 ・職員研修を学期に1回は実施する。 ・先進的で合理的な取り組みの情報を共有する。	A	・生徒理解協議会が定期的に行われており、生徒情報の共有化は推進できている。 ・教育相談、別室登校の取り組みを進めるべくその準備の一年となった。来年度から別室登校支援員の配置が決まり、一層充実を図っていきたい。	A	・生徒理解協議会を通し、十分な理解を持って指導に当たって頂きたいと思います ・子供達との良い関係性、距離感を持つことを大事にして接していただきたく思います。																																																																																													
●…県共通 ○…学校独自 ○…意を高める教育																																																																																																				
5 総合評価・ 次年度への展望	・学力向上については、11の方策の数値設定を修正し、実態に即した目標になった。全体としてはどの学年も大きく落ち込んでいるわけではないが、教科の数値バランスが悪い時期もあったようである。目先の数値よりも3年間、あるいは6年間の指導ビジョンをその都度確認、検証して効果ある指導につなげていかなければならない。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を学校行事を通して、あるいは道徳教育等を通して取り組み、ある程度の結果を残せた。いじめの早期発見早期対応に努め、教師間での情報共有や保護者への迅速な連絡、相談に努めてきた。別室登校支援員の配置も決まり、教育相談、特別支援教育的側面からの生徒支援の充実を今後も図っていきたい。 ・グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組み、各種行事等を計画通りに実行することができた。また、海外研修にも積極的に参加する生徒等、多くの生徒が校外活動においてもチャレンジした。次年度もさらに発展させたい。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進や部活動の休養日については、その意義を周知してきたが、時間外勤務の時間数は昨年度と比較して改善されたとは言えない。一人ひとりの意識改革も必要であるが、学校全体で取り組む業務改善の目標を設定し、あわせて用務の平準化を今後も進めていく。																																																																																																			